

日本小児歯科学会認定歯科衛生士申請について

この資格は日本小児歯科学会が認定する小児歯科医療に特化した知識を技術を持つ歯科衛生士の制度です。

日本小児歯科学会で推奨されている指導内容など、ホームページでご確認ください。
(子どもたちの口と歯の質問箱やインフォメーションをご確認ください。

例えば、濃度の高いフッ化物配合薬用歯磨き剤の使用についてなど)

使用する用語については 学会用語辞典で使用されているものに統一してください。
※自院で使用している記号などは使用できません。

例:う蝕→齲蝕

フッ素入り歯磨剤→フッ化物入り歯磨剤

サホライド→フッ化ジアンミン銀

日本小児歯科学会認定歯科衛生士申請について

審査は

・歯科衛生士としての技術・知識について行いますが、それだけあればよいという事ではありません。それぞれの子どもたちに寄り添い、子どもたちの未来にしっかりと関わることができるかを審査します。5症例のすべての子どもへの指導が「歯みがき指導と食生活指導をした」だけにならないように、その子にとってどのような指導が必要だったか、理由と指導内容、その後の変化について記載してください。

・口腔内写真・PCRなど、第三者が評価できる資料を添付してください。
初診時、資料採得が難しかった場合は、その旨を記載してください。
その場合も、慣れてきたら、口腔内写真やPCRを提示してください。

・歯科衛生士として、院内でのプロフェッショナルケア、家庭で行われるケアの指導、食生活指導、子どもの成長発育にあった指導をご提示ください。

不明なことは委員会へお問い合わせください。

公益社団法人日本小児歯科学会
認定歯科衛生士申請症例報告書

(所属) ○○歯科
(氏名) ○○ ○○

症例

**精神的な成長に寄り添いながら
定期的に口腔管理を行った1例**

Y・Kちゃん

- ①初診年月日 平成29年6月9日
- ②初診時年齢 7歳10か月
- ③性別 女児
- ④主訴 他院での矯正治療終了後の定期検診
- ⑤現病歴 7歳から他院で矯正治療が行われ、治療後当院を紹介された
- ⑥既往歴 喘息
- ⑦全身所見 何もない場合は特記事項なしと記載
(身長・体重・カウプ指数やローレル指数などわかる範囲であればさらによい)
- ⑧口腔内所見
(歯式・ヘルマン歯齡・
歯肉炎の状況など)
- | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|
| 6 | E | D | C | 2 | 1 | | 1 | 2 | C | D | E | 6 |
| 6 | E | D | C | 2 | 1 | | 1 | 2 | C | D | E | 6 |
- ⑨ブラッシング状況 朝・夜の仕上げ磨きあり(毎日)、歯磨剤の使用あり
- ⑩成育環境 父・母・兄の4人家族

初診時

(平成29年6月9日)



(上顎咬合面写真)

初診時の口腔内写真がない場合は、その旨を記してください。
また、顔写真など1枚でもかまいません。
初診時ではなくても、取れるようになった場合は、その時期に近い写真を添付してください。



(側方写真)



(正面写真)



(側方写真)

口腔内写真の撮り方も審査の対象になりますが、このように臼歯部まで入ってなくても、最終的にちゃんと口腔内写真(スライド19)が撮られていれば、しっかり撮ることができるようになったと評価します。



(下顎咬合面写真)

⑪治療方針

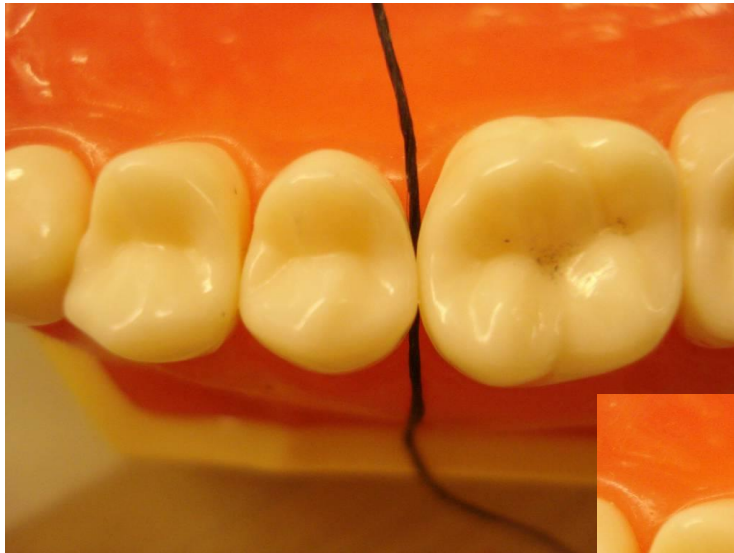
患児と母親は矯正治療終了後という事もあり、口腔内への関心が高いが、うまくブラシが当たっていない事、フロスの使用もない事から歯肉炎になっていた為、それぞれ指導を行うと共に3か月毎の定期検診で、当院ではPMTC、シーラント、フッ化物塗布を行う。

スライド作成も「人に伝える」力として大切です。様々な工夫をしてわかりやすいスライドを作成してください。
このような表にしてもよいと思います。

初診時指導内容

①	「どうしてむし歯になるのか？」の説明を、まずはステファン曲線を用いて説明し、だらだら食べるのをやめるように指導した。
②	食生活を確認したところ、毎日、甘い乳酸菌飲料の摂取があった為、量を減らすように指導した。
③	フロスの使用がなかった為、保護者と患児へ模型を用いて、フロスをゆっくり歯と歯の間に入れ、それぞれの歯の形にしっかり沿わせて動かし引き抜くように指導した。
④	保護者は真剣に聞いてくれていたが、本人はあまり興味がないようだったので、歯ブラシやフロスの使用をさぼると、きれいなお口の中になれないかもしれないお話をし、「小学生のみなさんへ」（当院制作①→資料はこちらには 掲示していません ）を使用しながら小学生のむし歯予防の方法について一緒に確認をした。

保護者へのフロス指導



委員会から

申請される症例は「定期検診に入っていること」という条件があります。定期検診に入るにはどのような条件が必要なのか、各医院での基準があると思いますが、初診から提出される最後の時まで、う蝕の治療中であつたり、一度もPCRや歯肉炎の改善がされなかったり、食生活が改善されていない状況では、定期検診に入っていると判断されませんのでお気を付けください。

定期検診に入り、提出までお口の中がきれいに保てている症例では、なぜ、それが継続できたかなども重要なポイントです。

提出する症例は特別何か起きた症例である必要はありません。

①再診日

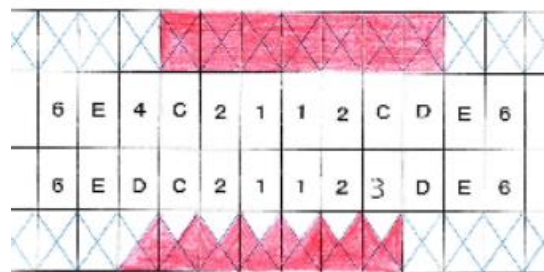
平成31年1月21日(初診時から ○回目)

②年齢

9歳5か月

③口腔内所見(歯式)

seal	6	E	4	C	2	1		1	2	C	D	E	6	seal
	6	E	D	C	2	1		1	2	3	D	E	6	
seal														seal



※PCR48%

④管理中の経過報告

3ヶ月毎の定期検診は継続していたが、口腔内はC21 | 12C の
 歯肉炎と出血があり、C | CDに白濁も見られた。
 再来問診票には、これまでなかった「指しゃぶり」「爪かみ」の
 記載があり、喘息の薬の種類や量も増えていたことから、
 ストレスを抱えているように思えた。毎日ジュースや乳酸菌飲料をたくさん
 飲み、夕食後に兄と一緒にお菓子を食べるなど、不規則な生活であった。
 フロスも出来ていなかった。

⑤指導内容

保護者の患児への指示が厳しく、保護者との関係が患児のストレスに
 なっているように見えた。
 反抗期のような状態だったので、保護者には患児が歯みがきやフロスを
 自分自身でやれるように、少しずつ任せていく事を提案した。
 患児には一人でフロスや歯みがきができるように
 やりやすい方法を指導した。
 (フロスを輪にして行う方法: 当院制作②)

⑥指導計画

定期検診時、シーラント、PMTc、フッ化物塗布で管理しつつ、食生活を
 確認していく。

子ども本人が行うフロスの仕方

① 糸を輪っかにする



フロスを30cmくらいに切り、糸結んで輪っかを作ります。

持ちやすい



② 鏡の前で練習



鏡をじっくり見ながら、歯と歯の間に、糸をゆっくりと入れます。



③ 上の前歯



片方の手の指を歯の外側、もう片方の指は内側に入れます。



④ 下の前歯



両手の人差し指を下に向けておさえ、
片方の指は外側、もう一方は



⑤ 奥歯



糸を短く持って、片方の指はべろ側へ、もう片方の指はほっぺをひっぱり、

定期管理中

(平成31年1月21日)



(上顎咬合面写真)



(顔貌写真)



(側方写真)



(正面写真)



(側方写真)



(下顎咬合面写真)

①再診日

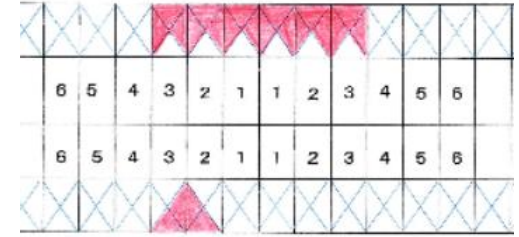
令和2年4月1日

②年齢

10歳8か月

③口腔内所見(歯式)

seal	seal	seal										seal	seal	seal
6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6			
6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6			
seal	seal	seal										seal	seal	seal



※PCR22%

④管理中の経過報告

初診時から定期的に受診し、口腔内は健康的に維持されていた。今回は歯肉炎がみられた。自宅での食生活を父に聞いてみると新型コロナウイルスで小学校が休校になり、自宅では毎日お菓子を食べ、炭酸飲料をたくさん飲んでいて食生活が乱れていると教えてくれた。また、フロスやフッ化物の使用も、時々しか出来ていなかった。

⑤指導内容

患儿と父親に「ジュースの中にはこんなに砂糖が入っています。」(当院制作③)を見せて、炭酸飲料や甘い飲み物は、歯肉炎や、むし歯になりやすい事を伝えた。また、むし歯になり、歯を一度でも削ると歯が弱くなり、その後もむし歯ができやすいことや、むし歯が大きいと銀歯になってしまう事を説明し、ジュースは、お水やお茶に替えるように指導した。父親に食生活シートを渡し、自宅での食生活を次回までに書いて来て頂く様をお願いした。

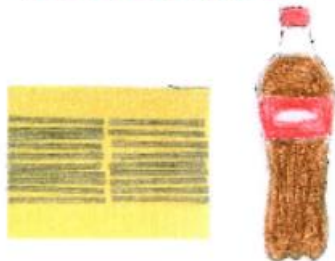
⑥指導計画

1か月後、食生活シートを確認し指導を行う。

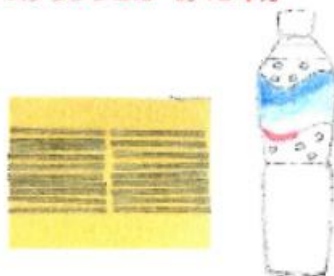
「ジュースの中にはこんなに砂糖が入っています。」 当院制作③

ジュースの中にはこんなに砂糖が入っています。 1日の摂取目安量 50g

オーラ 500ml | ペットボトル 砂糖 55.5g
スティックシュガー約 19本分



カオピス 500ml | ペットボトル 砂糖 56g
スティックシュガー約 19本分



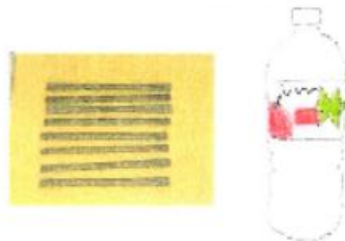
スポーツドリンク 500ml | ペットボトル 砂糖 30g
スティックシュガー約 10本分



乳酸菌飲料 80ml | 12g
スティックシュガー約 4本分



透明な甘い水 500ml | ペットボトル 24g
スティックシュガー約 8本分



野菜ジュース紙パック 200ml | 20g
スティックシュガー約 7本分



定期管理中

(令和2年4月1日)



(上顎咬合面写真)



(側方写真)



(正面写真)



(側方写真)



(下顎咬合面写真)

①再診日

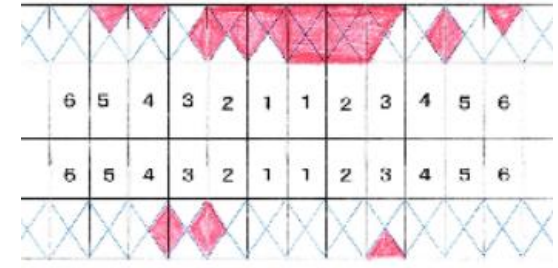
令和2年5月1日

②年齢

10歳9か月

③口腔内所見(歯式)

seal	seal	seal								seal	seal	seal
6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	
6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	
seal	seal	seal								seal	seal	seal



※PCR20%

④管理中の経過報告

前回の来院後から、お菓子やジュースをかなり減らし、「むし歯になり銀歯を入れるのは嫌なので、自宅でのブラッシング・フロス・フッ化物洗口を時間をかけて頑張った。」と本人が自分でケアを行った事を教えてくれた。口腔内のプラークの付着も少なく、歯肉炎もかなり改善されていた。「指しゃぶり」「爪かみ」は自然に行わなくなったようだ。

⑤指導内容

まずは染め出し、ブラッシング指導を行い、特に21 | 12の歯頸部はワンタフトブラシを使用し、1本ずつ丁寧に磨く様に指導した。前回配布していた食生活シートを確認し、ジュースをお水やお茶にした事は、とても良いので続けるように伝えた。また、夜食にアイスをはほぼ毎日食べている点については、毎日ではなく回数を減らすように指導した。平日に朝食、昼食、夕食など抜けていることがあった為、規則正しい食事が規則正しい生活につながる事をお話しし、歯を守る為にも食生活に気をつける事がとても大切である事を本人・保護者と一緒に再確認した。

⑥指導計画

今後も検診時の口腔内の状況に変化があれば食生活の確認を行い、指導を行っていく。院内でのプロフェッショナルケアも重要なので、定期検診を継続する。

食事について

毎日の食生活が虫歯予防には重要です。せっかく、むし歯の治療をしても、むし歯になつた原因がわからぬと、またむし歯になるかともれませんが、下記をご記入いただき、一

保護者の方の気が付かない原因があるかも知れませんので、下記をご記入いただき、一

緒に原因を考へ改善したいと思しますので、御協力をお願いします。

※水以外の飲み物も含め、お口に入れたものはすべて記載してください。

月	朝食	朝食	昼食	間食	夕食	夜食
10日(金)	おにぎり 水		うどん 麦茶	ロール ケーキ	←	しょうが お茶 お茶
11日(土)	リーゼッツ お茶 おにぎり		ラーメン 水、お茶		FLM ごはん お茶 キャン	
12日(日)	チョコ パン お茶		スーパ ごはん お茶	ポテチ	←	カツ ごはん お茶
13日(月)	さけ ごはん お茶	夕飯お		バナ	にしゆ ナリ ごはん お茶	アイス
14日(火)	ハニエ ごはん お茶		スリガ お茶	ポテチ チョコ キャン		アイス
15日(水)			カツ ごはん お茶			アイス
16日(木)	お茶 パン クッキー スープ	おに ごはん	ごはん お茶		まぐろ お茶 ごはん	アイス

とき案件

定期管理中

(令和2年5月1日)



(上顎咬合面染め出し写真)



(側方染め出し写真)



(正面染め出し写真)



(側方染め出し写真)



(下顎咬合面染め出し写真)

①再診日

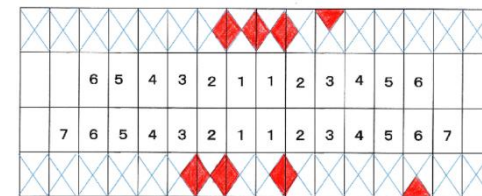
令和3年2月17日

②年齢

11歳6か月

③口腔内所見(歯式)

seal	seal	seal											seal	seal	seal	
6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6				
7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7		
	seal	seal	seal											seal	seal	seal



※PCR13%

④管理中の経過報告

前回の検診後から自宅では、特に上下前歯部のブラッシングを丁寧に行い、フッ素洗口液の使用も再開した為、前回と比較して口腔内環境が改善されていた。しかし、患児は平日の夜に週に2回、テニスを習っている為練習で疲れてしまい、フロスまで出来ない日があった。患児は「平日に出来なかった分は、休日に特に時間をかけてフロスを頑張ってきた。」と教えてくれた。

⑤指導内容

再度、染め出してブラッシング指導を行った。また、患児に対し、フロスを平日に出来なかった分を休日に丁寧に行う事は、とても良い事なので、今後も続けてもらうように伝えた。学校に行く時や外出時などにフロスを持ち歩き、休み時間など空いた時間に行う事も良いと指導した。

⑥指導計画

今後も定期検診を継続しながら、患児の生活リズムや2次性徴を確認しながら、口腔内の変化に対応できるように指導する。

定期管理中

(令和3年2月17日)



(上顎咬合面写真)



(顔貌写真)



(側方写真)



(正面写真)



(側方写真)



(下顎咬合面写真)

考察

初診時の患児と母親は矯正治療終了後という事もあり、口腔内への関心が高く、口腔内環境は比較的良い状態であった。

3ヶ月毎の定期検診を継続しながら、自宅でのケアにも力を入れていた。

患児の「予防に力を入れて現在ある歯を大切にしたい。」という思いが伝わってきて歯科衛生士としても嬉しく感じ、さらに指導に力が入った。

定期検診は継続していたが、新型コロナウイルス流行で小学校が休校になるなどの影響もあり、食生活が乱れてしまい、歯牙白濁や歯肉炎がみられるようになった。

定期検診での予防処置やブラッシング指導、PMTCを行い、口腔内環境の安定している状態が続いていた為、しばらく食生活指導を行って来なかった事を反省した。

環境の変化があった際には、確認や指導が必要だと感じた。

また、吸指癖、咬爪癖など、精神的に安定しない時期もあったが

その時は患児本人には無理のない指導を行うとともに、熱心になりすぎている保護者には患児との距離を少しとりながら、患児自身に口腔ケアを任せてみるように指導した。

患児は学年が進むにつれ、学校や習い事で忙しくなったが、平日に出来ない分を休日に丁寧に言う工夫をするなど、患児自身の口腔内への意識が高くなった事をととても嬉しく感じた。

この指導を通して、定期検診や予防処置だけに力を入れるだけでは口腔内環境の安定を図る事は出来ず、患児の生活環境の変化や精神的な状態を考えた指導も一緒に行っていく事が大切である事を実感した。

今後、2次性徴に伴う、口腔内の変化、精神的な変化にも気を付け、歯科衛生士として患児に寄り添った指導をしていきたい。